

# シリーズ 2 夏井「ハサ木」の誘い

■先月号からスタートした「おじゃまします 地域情報ネットワーク」。二回目の今月は「夏井地区」におじゃましてみました。

夏井は岩室地区の集落では、岩室、石瀬に次いで三番めに大きな集落です。

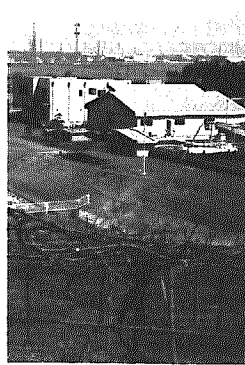
夏井—といえば、今や有名なものに「ハサ木」があります。一団になったハサ木群があるのは、県内でもここだけといわれ、写真愛好家を中心に人気急上昇の地区です。ここにハサ木が割合残った理由の一つに、ハサ木の所有者と田んぼの所有者が違っていた点がありました。コンバインなどの農業機械の普及で、作業の支障となるハサ木が次々と切れ、最後の風物詩とまでいわれたハサ木は各



四季折々の美しさが魅力の夏井のハサ木群

地からその役目（ハサかけ）の解除とともに姿を消してしまいました。少なくなると、なんでもそうですが、逆に注目を浴びクローズアップされます。このハサ木群もその例にもれず、いま、観光協会などでは、奨励金を出してその保存に努めています。

ところで、夏井地区では、いま新しい村づくりを進めるため、新地域農業振興総合指導事業（県補助事業）に取り組んでいます。この事業はすでに昭和五十九年から始まっています。



昭和60年7月に完成した夏井浄水場の様子

すが、六十一年までの三年間を第一次に地区内の実態調査を中心に事業を展開してきました。これを受け、六十二年から「こういうものがいい。こういう方向で進みたい」といった具体的な施策づくりに着手しました。事業の中核的役割を果たす集落営農推進委員会でき、生産組織部会・コシヒカリ団地部会・転作部会・ぶどう部会の各部会を中心とした推進体制を整え、新しい農業振興を中心とした地域づくりを始めています。

「正直なところ、夏井は規模的に大きいためか、まとまり、といった点では少し弱点がありました。しかし、この営農を核とした地域づくり事業に取り組み始めてからは、ある



夏井区長 山上清門さん (夏井・55歳)

面で統一ができて中堅年齢層を中心にまとまりができてきたと思います。今後もつとつと話し合いを進め、明るくそして活力ある農村地域づくりができれば最高ですね」と夏井区長の山上清門さん（55歳）。「また、若い人たちが動くと、本当に地区全体に活力がでてきますね。その一つの例に毎年旧盆（八月十六日、十七日）に開かれるカラオケ大会があります。三年前から始まった催しですが、今では地区民全体の楽しい交流の機会になっています。これも新しい流れでしょうか」と山上さん。また、夏井はぶどう作りでも知られていますが、業績は残念ながらいまひとつ。しかし、いま高品位のえだ豆作りを積極的にすすめている真剣でまじめな地区です。

夏井の顔

位置図

人口と世帯数	
人	428
男	214
女	214
世帯数	89

## 編集後記

■わたくしごとで恐縮ですが、この四月から広報編集の手伝いをすることになりました。今までは、出来たものを見るだけでしたが、今度は作る側……。なにせ文章を書くのが、大の苦手という、わたしですから、自分の間は記事の収集専門に走り回りますので、なにかおもしろいことや変わった情報がありましたら、どんどんご連絡ください。いつでも伺いますので、どうぞよろしく。(一)

■先月号の編集後記でも少しふれましたが、A4判サイズに拡大したことを契機に、みなさんのところの身近な話題をどんどんご紹介したいと思っています。手始めに各地区の区長さんに地域での話題や情報の提供をお願いしているのですが、みなさんも「うちではこんなことをやるんだよ」「こんなものはどうだろう」と話題をお寄せください。もちろん、「こんなことで困っているのだが」といった相談的なことでもOKです。

■ところで、今号から本紙の担当が兼務ではありますが二人になりました。これまで以上に外に飛び出し、楽しい話題を発掘したいと思いますので、よろしく……。(み)